

教えて！カナダのこと カナダ人から見た日本のこと

ライアン・オダムラさんにインタビュー



ライアン・オダムラさんは日系4世(母親がイギリス系)のカナダ人です。高校の時、日本からの留学生と友達になり、自分のルーツである日本に興味を持ちました。仙台の高校に留学、その後大阪の大学を卒業し英会話講師として来県し6年目です。現在は山形市の国際交流員として働いています。

「男は仕事、女は家庭」という役割分担は？

A カナダでは古い考え方になっている。政界でもカナダ初女性首相が1993年に誕生している。

カナダでは結婚すると二人で暮らすのですか？

A 結婚して親と住む人はまずいないですね。僕のお父さんは日系の長男。でもじいちゃん、ばあちゃんと一緒には暮らさなかった。暮らせなかった。

誰が子どもを見るのですか？

A 仕事をしている母親ならデイケアが退職したじいちゃん、ばあちゃんにお願いするか、どっちかですね。

料理はしますか？

A …んー。バーベキューであれば。カナダの家にバーベキューセットは必ずある。バーベキュー料理なら男性。

男性の家事や労働参加について、どう思いますか？

A カナダの男性はできるだけ手伝っていると思う。自分の場合は血洗いや洗濯、掃除機かけなどをやっている。日本の男性も感謝をこめてやったほうがよい。家庭生活がうまくいくのであれば家事も手伝うよ(笑)。

出産子育ては？

A 女性の場合、出産子育て休暇があるんです。休暇が終わった後もとのポジションにもどるのが常識。

カナダの働き方は？

A けっして楽な仕事をしてたわけでもないが、自分の経験ではお父さんは午後6時より遅い時間に帰って来た事がない。4時から5時に必ず帰れた。働かせると労働組合にクレームがくる。カナダの労働組合は力をもってるからね。

子どもの頃どんな風にごしていましたか？

A 近所の子もたちと自転車に乗ったり外で遊んだ。それから自分の場合はアルバイト。10歳から週1回の新聞配達、11歳からは週2回。ほかにスポーツもやってた。

アルバイトはまわりで許してくれたのですか？

A 逆に勤められたというか、子どもたちの会話で、こづかいが皆僕より多かったから家に帰って、お父さんに「どういっ

ちゃ。」(笑)って聞いたら、「世間は甘くないよ。自分で稼ぎなさい。」って、お父さんは厳しかったから。中高生になったら他の子もアルバイトをやっているという環境にあったからね。

カナダのいいところは？

A 遊ぶ時間や趣味をやる時間がある。日本は就職するとスポーツする時間がなくなる人が多い。カナダではアイスホッケーチームに入っていて出席はばっちり。もちろんそれだけじゃなくて仕事はきちんと時間内にする。

日本や山形について

A 今は変な事件があるけど、夜中に女性が一人で歩いて安全。ほかの国だったら緊張すると思う。それから、メディアに影響されやすい。カーリングとかハンドボールとか、報道(取材)によって盛り上がる。

読者へのメッセージはありますか？

A 会社は、夜11時まで働く必要があれば他の人を採用して欲しい。働きすぎとか、運動できないのでメタボになったり。「会社が命」のスローガンを変えて欲しい。それから自分より高いポジションにある人に「はい、はい」とだけ言って、思っていることが言えないのが残念。

おいしい文化交流

カナダの自宅で寿司と言うと、いなり寿司か海苔巻きだったので、こっちに来て初めて生ずしを食べて驚いたと言うライアンさん。「お袋の味は」の間に「しょうゆとケチャップとはちみつを混ぜたたれに漬けた照り焼きチキン」と答えてくれました。食べ物も人間も男も女も文化も、いい具合に混ぜ合わせてお互いを引き立てあい良い味を出したいものです。

オダムラ家の照り焼きチキン

- 1 しょうゆとケチャップ、はちみつを混ぜ合わせたものに鶏肉を漬け込む。
- 2 汁ごとオープンで焼くかバーベキューで焼く。



地域できいきいき

「サポート唯」の活動

社会問題は他人事になりやすい
本当は身近で起きているのに

NPO法人(特定非営利活動法人)

山形市に地道に活動をしているNPOがある。その内容はドメスティックバイオレンス(配偶者からの暴力・以下DVと表記)の電話相談等、食育講座、まちづくり等の政策への提言と幅広い。
「サポート唯」は平成14年に任意団体から発足した。その後、「活動を継続したい」とNPO法人となった。

「ここには、自ら」問題を何とかしよう」とする人たちの熱意が感じられる。

「この新聞記事を半年間握り締め、やっと電話をかけたという人がいたんですよ。」山形県においてDVの相談件数は年々増えてきている。

DVの電話相談は毎週金曜日の11時から15時の間受け、専門の知識を持った人が対応している。「電話をかける」とは勇気がいることだけど、まず話して欲しい。「唯」の思い。

言葉によって相手に傷つけられても単なる夫婦喧嘩と思ってしまうこともある。「認知されることが大事。」と寸劇の上演などもしている。

若い人の間でもDVが起きている

という。自分以外の人と(同性であっても)つきあいをさせないなど束縛することもDVにあたる。

「小さい時から相手をひとりの人間として認める教育が必要」と語ってくれた。

食と農の安全に関する事業

＊人間は食えることで生命をつないでいる。「最近食と農がなんだか変わった」早くから気づき取り組んできた。

1月19日、「地産地消で食を育む」という食育講座を主催した。食育を地域、学校、保護者、生産者など一体となって取り組もうとしたものだった。(下記記事)



農家を借りて、地産地消の食事会や消費者と生産者の意見交換会を実施したり、地産地消の給食の実態調査をしたり、「食」をとりまく多くの人の意見をまとめて交流し、農家、行政、流通まで含めて活動の輪を広げている。

このほかに政策提言や行政機関と連携した事業なども行っている。

DVも、食や農の問題も、互いに相手の思いをきちんと知ることが大切だ。

そこから知恵がうまれ問題の解決につながるのだと思う。けっして他人事ではないのだ。

サポート唯

現在は、中心のメンバーをはじめ正会員、活動会員、賛助会員を含めると百十名の会員がいる。
023-646-00805

※NPO法人・行政や企業とは違う。民間の非営利公益活動を行う法人のこと。

地産地消で「食育講座」より食を育む

平成20年1月19日 山形市男女共同参画センターにて

山形中央クッキングスクール校長 古田久子氏

「食」も時代が変わっていく。国の政策も食生活も違う。ぜひ、家族揃って料理する日をつくり、伝統食を伝えていって欲しい。



山形県母親委員会前年度委員長 佐藤静子氏

私の子どもの頃は茶碗にご飯粒が残っていると年寄りが「もったいない。作ってくれた人に感謝して食べなさい。」と教えてくれた。



山形県指導農業者(専業農家) 青柳智子氏

米は30%も減反しなくてはならなかった。そこで、工夫しながらプロッコリーとか、とうもろこし、赤根ほうれん草などを作っている。直売所などで、お客さんからいろいろな情報をもらっている。



山形県教育長 山口常夫氏

「マイ箸」をもっていく。食べる前は「いただきます」と言うようにしている。箸の礼儀作法をもっと知って欲しい。親が規範を示せるように。



東北農政局山形農政事務所 佐藤光成氏

山形県の農作物自給率は米を除くと23%にすぎない。(地産のものを)消費者は買う意志が必要。



出席者の意見の一部しか載せられないのが残念です。会が終わった後も、あちらこちらで交流の輪ができていました。